

滋賀県栗東市教育委員会
公益財団法人栗東市スポーツ協会

調査対象：栗東市下鉤遺跡
調査期間：令和3年度2次調査

調査場所：栗東市下鉤

調査者：栗東市教育委員会
公益財団法人栗東市スポーツ協会

滋賀県栗東市
下鉤遺跡発掘調査報告書
令和3年度2次調査

令和4年（2022）4月

栗東市教育委員会
公益財団法人栗東市スポーツ協会

例 言

- 1 本書は、滋賀県栗東市苅原66番-1、67番-1、68番-1において実施した、下鈎遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、現地調査を令和3年9月21日から令和3年10月22日まで、整理調査を令和3年9月21日から令和4年4月26日までの期間で実施した。
- 3 調査体制は、以下のとおりである。

調査主体	栗東市教育委員会事務局	教育長	福原 快俊
		教育部長	川崎 武徳
		教育部次長(兼スポーツ・文化振興課長)	片岡 豊裕
	スポーツ・文化振興課	文化財保護係	課長補佐 駒井 美香
		主 幹	雨森 智美
		主 査	藤岡 英礼
調査機関	公益財団法人栗東市スポーツ協会 事務局	会 長	竹村 健
		局 長	宮城 安治
	文化財調査課	課長補佐	近藤 広
		係 長	佐伯 英樹
		技 師	遠藤あゆむ
		技 師	末次由紀恵
		専門員	森 智美

- 5 現地及び整理調査への参加者は、以下の通りである。
調査補助員 小田 恵子 大岡 道代 柴原 慶子 畑本 陽子 三浦 典江
山本明日香 横江 絵理 谷口由香里 兵恵 志保 脇 優加
雨森 泰良 吉川 雅彦 松本 里美 小谷由記子
整 理 員 野田 美香 奥村 千絵
- 6 本書の執筆は、第一章第一節を藤岡英礼が、ほかを遠藤あゆむが行った。編集は遠藤が担当した。
- 7 遺構写真及び遺物写真は遠藤が撮影した。
- 8 本書で使用した標高はT P（東京湾平均海面高度）である。
- 9 出土遺物や写真・図面については栗東市教育委員会（栗東市出土文化財センター）で保管している。本調査の調査管理番号は2021R095-02である。

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯

栗東市苧原66番-1・67番-1・68番-1においてsublime不動産販売株式会社代表取締役南井崇作氏及び長谷昇栄氏により、共同住宅建設工事が計画された。当該地は下鈎遺跡に位置する事から、令和2年12月18日付けで埋蔵文化財発掘届と調査依頼が提出された。これにより栗東市教育委員会が令和3年9月7日に試掘調査を実施した結果、古代のピットや竪穴状遺構が確認されたことから、発掘調査を実施することとなった。

現地発掘調査は栗東市教育委員会を調査主体に、公益財団法人栗東市スポーツ協会を調査機関として、令和3年9月21日から令和3年10月22日の期間で実施した。

第2節 位置と環境

下鈎遺跡は、琵琶湖へと流入する多数の河川群が形成する扇状地上に位置している。遺跡の範囲は下鈎、苧原地域にまたがり、縄文時代から近世まで幅広い遺構、遺物が出土している。今回の調査区が位置する苧原地域で行われた調査では、布掘構造の大型建物（1992年栗東市調査）や、特殊棟持柱建物（1997年調査）、建物と同時期の遺物を包含する河川跡などが検出されている。河川からは銅環や銅鏃、水銀朱の付着した石杵など、特徴的な遺物が多数出土している。また、2010年に行われた調査区隣接地での調査では、多数の掘立柱建物の他周溝付建物、自然流路、大溝などが検出されている。自然流路からは槽づくりの琴が出土している。本調査区に隣接する2020年度調査及び2021年度1次調査では、周溝付建物とみられる遺構が検出されている。



第1図 調査区周辺地図

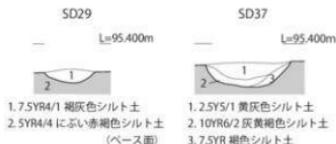
第2章 調査の成果

第1節 調査の方法

調査対象面積は約204㎡で、現況である水田部分の耕土を重機掘削に除去後、遺構検出、遺構掘削を人力によって作業を行った。遺構測量、写真撮影を行った後、重機による埋め戻し作業を行った。その後、現地で作成した図面及び出土した遺物の整理調査を2022年4月26日まで行った。

第2節 基本層序

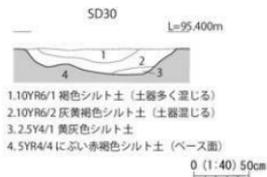
調査区内の基本層序は、層厚0.4mの耕土の下に遺構検出面である黄褐色粘質土層がある。周辺の標高はおおよそ95mである。



第3節 検出遺構・遺物

今回の調査区内での遺構密度は低く、中世以降の耕作溝を除いて時期差もみられない。主要遺構を以下に列挙する。

SD29 調査区内中央部にみられる半円形の周溝で、最大幅は約1m、深さ約0.3mである。2010年の調査で検出された溝と位置が合致する。円形に巡る溝の内径は約16mを測る。遺物は摩滅が激しく、実測可能な遺物が少数であった。壺(1-5, 7, 8)、器台(6)、砥石(12)が出土している。



第2図 遺構断面図

1は「く」の字口縁を呈している。2は壺底部である。やや丸みを持った底部で、古墳時代前期とみられる。3は壺胴部とみられる。胴部径約4.2cmとかなり小型である。4は頸部にミガキを施す。5は壺胴部である。6は器台端部であり、端部に4連の浮文を施す。7は二重口縁の口縁部、8は壺口縁で、端部が直立している。12は砥石で、1面のみに擦過痕が確認できる。

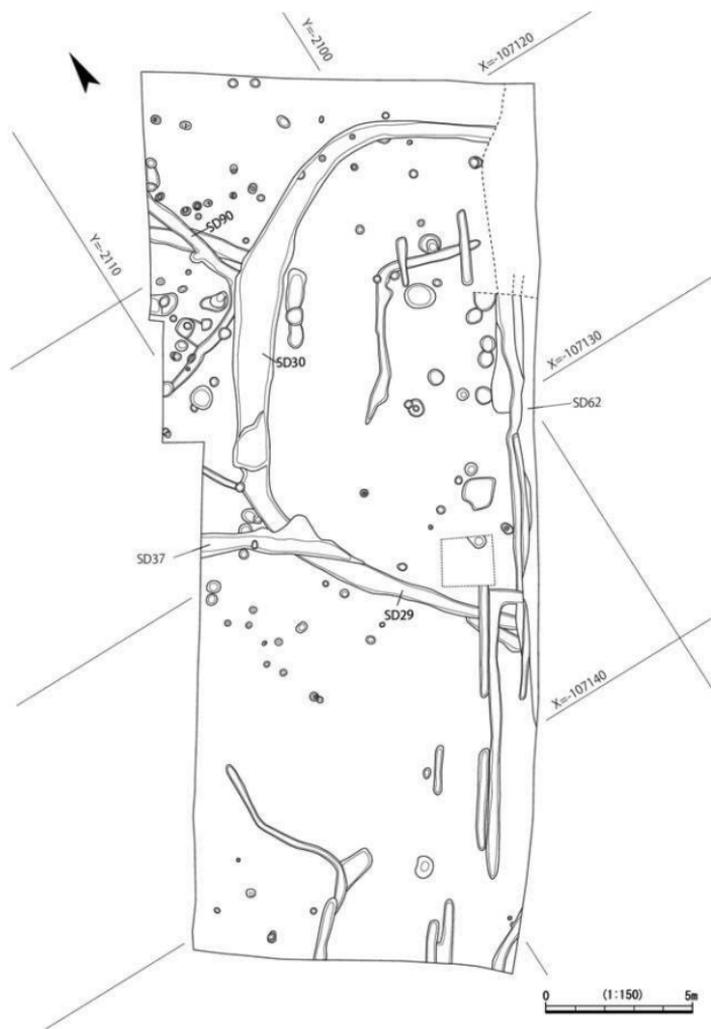
SD37 SB29を切る形で掘削された溝で、遺物量は他溝と同様少ない。壺(9)が出土している。9は壺底部であり、丸底を呈する。遺物から時期の推定は難しいものの、遺構の切り合い関係からSB29にやや遅れる古墳時代前期の溝とみられる。

SD62 調査区内西南部で検出された溝で、条里方向を指向している。白磁片と黒色土器片が出土していることから中世以後の溝とみられる。

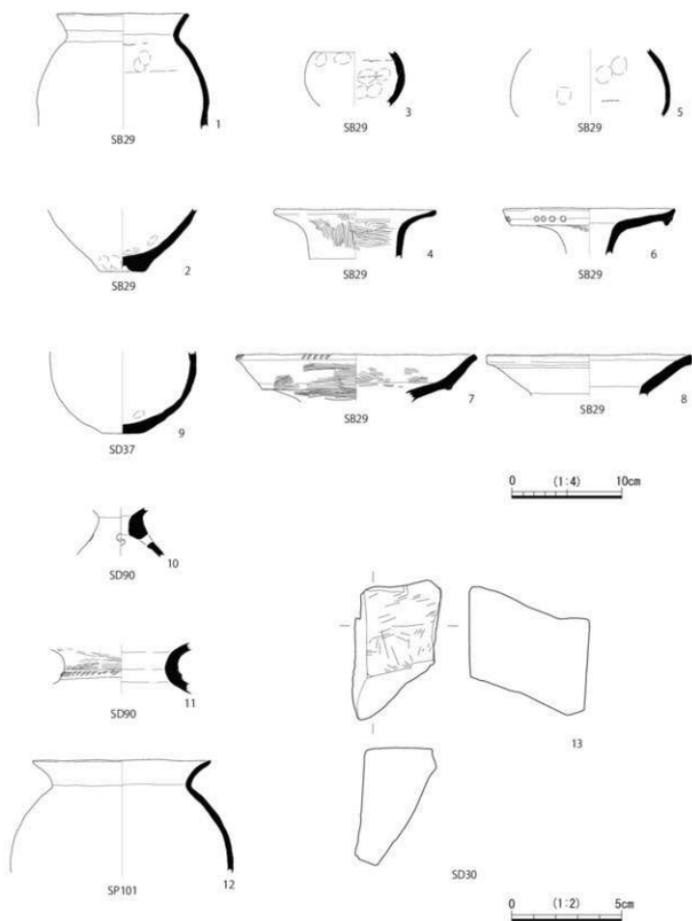
SD90 調査区内北部で検出されたくの字に折れ曲がる溝で、切合関係からSD30とほぼ同時期か、わずかに先行する時期である。遺物は高坏(10)と、壺(11)が出土している。10は脚部のみで、4つの透かし孔を持つ。11は頸部のみで、突帯部に列点文を施す。遺物の出土量が少ないため根拠に乏しいが、古墳時代前期の溝とみられる。

まとめ

今回の発掘調査では、半円形に残る周溝を数条確認することが出来た。2010年度調査で確認された周溝付建物は周溝部分が僅かに残るのみで、後世の削平による影響を大きく受けており、建物本体の遺構は希薄であった。今回の調査区内で検出された周溝とみられる溝も後世の削平によって大きく削られているものと考えられる。溝から出土した遺物も摩滅が激しく、溝の埋土中から出土したこと、総量も少ないことから、廃棄されたものが自然と溝に堆積したものとみられる。また、調査区内でも西部は遺構密度が希薄となり、建物に伴う遺構も見られなくなること、1999年度の調査でも遺構残存が希薄な地域であることから、2010年度の調査で検出した集落の西限がある程度確認できたことが成果として挙げられるであろう。



第3図 遺構平面図



第4図 出土遺物実測図



1



3



5



2



4



6



7



8



10



12



12



13



スクレイパー



スクレイパー



遺構完掘状況（北東から）



遺構完掘状況（北東から）



拡張部遺構検出状況（北西から）



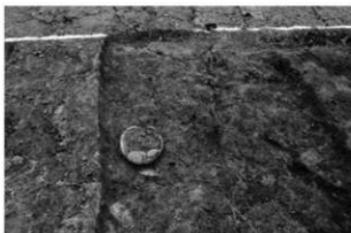
拡張部遺構完掘状況（北西から）



遺構検出状況（南から）



遺構検出状況（北から）



SB29遺物出土状況



SB29遺物出土状況



作業風景

報告書抄録

ふりがな	しもまがりいせき							
書名	下鈎遺跡							
副書名	令和3年度2次調査							
巻次								
シリーズ名	栗東市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第189冊							
編著者名	藤岡英礼(栗東市教育委員会) 遠藤あゆむ(栗東市スポーツ協会)							
編集・発行機関	栗東市教育委員会							
所在地	滋賀県栗東市安養寺三丁目1-1 公益財団法人栗東市スポーツ協会 文化財調査課 滋賀県栗東市下戸山47 栗東市出土文化財センター内							
発行年月日	令和4年(2022)4月26日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	現地調査期間	調査 面積	調査原因
		市町	遺跡番号					
下鈎	滋賀県栗東市 安養寺 66番 67番 68番	208		35° 3' 40"	135° 97' 67"	令和3年9月21日 ～ 令和4年4月26日	204㎡	集合住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
下鈎 2021R095-02	集落	古墳時代前期		土坑 ピット 河川 周溝付建物		土師器 石器		
要約	古墳時代の建物の周溝部分とみられる溝とピットを検出							

栗東市文化財調査報告書第189冊

下鈎遺跡

令和4年(2022)4月26日

編集・発行 栗東市教育委員会

〒520-3015 滋賀県栗東市安養寺三丁目1-1

電話 077-551-0131 FAX 077-552-5544

公益財団法人栗東市スポーツ協会

〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山47番地

栗東市出土文化財センター内

電話 077-553-3359 FAX 077-553-3514

印刷・製本 株式会社スマイ印刷

